

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：幼児教育学科

資格：教授

氏名：藤谷 智子

研究分野	研究内容のキーワード
教育心理学、発達心理学、保育の心理学	メタ認知、自己制御学習、学力、自己形成、協同性
学位	最終学歴
教育学修士	慶應義塾大学大学院 社会学研究科 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 学生のアクティブラーニングを取り入れた授業展開	2014年4月～現在	演習科目においては、テーマにそったグループワークを取り入れている。個人ワーク、グループワーク、グループ発表、まとめ、個人での振り返りの手順で、科目内容の理解を深めている。
2. 授業における学生の理解度の把握	～現在	授業中に書いてもらった小レポートをもとに、学生の理解度を把握。また、次の授業で、主な内容や参考となる意見等を紹介し、学生の学習の理解度や意欲を高める。
3. 予習復習を重視した授業方法の改善	～現在	予習については、次回のテーマやキーワード等を提示し、予習を促す。復習についても、配付プリントをもとに指示する。
4. 学生の思考を促す発問の工夫	～現在	スライドと、講義内容に即した資料をもとにした質問をこころがけている。質問した場合は、考える時間や話し合う時間を取ってから、講義する。スライド画面についても、考えてほしい内容については、事前の配布を行わない。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 臨床発達心理士	2006年04月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 保育士試験の要点と問題	共	2013年5月	大阪教育図書	保育問題検討委員会編。「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」(p. 109-147)を担当。保育の心理学の領域の概要を整理し、保育士試験の対応できるよう、ポイントを抑えながら解説している。
2. 教育心理学—教育の科学的解明をめざして	共	2013年5月	慶應義塾大学出版会	安藤寿康・鹿毛雅治編。「教育方法」(pp. 224-243)を担当。教育心理学における理論をベースとした様々な教育方法を解説するだけでなく、子どもの発達過程との教育方法との関わり、授業デザインにおける教育方法の位置づけ等についても論じている。
3. 保育士のための基礎知識	共	2011年5月	大阪教育図書	植原清編。「第3章保育の心理学」(pp. 79-106)を執筆担当。保育の心理学Ⅰでは、保育と心理学、発達の理論と子ども理解、人との相互的かかわりと子どもの発達、生涯発達と初期経験の重要性について、保育の心理学Ⅱについては、子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通じた学びの過程、保育における発達援助の各見出しのもとに概説している。
4. 教育心理学へのいざない	共	1994年03月	八千代出版	並木・安藤・直井・大津・天岩・鹿毛・平田・讃岐教育心理学のテキストであるが、教育問題の解決と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
5. 保育へのみちびき	共	1993年04月	中央法規出版	<p>科学的研究の水準の維持の2つを同時に大切に考えようという姿勢を基本としている。§2の「認知機能の発達と教育方法」を担当。認知機能の発達の様相はもちろんのこと、何が発達するのかという点と認知機能の発達を考慮した教育方法に重点をおいている。認知発達への援助は、実は様々な認知的側面を個人差をも考慮した上で同時的に行っていく必要があること、さらには認知以外の広範な目標も重要であることを指摘した。(pp. 29-54)</p> <p>成田・硯川・佐々木・天田・高坪・成田・松田・立浪・田中・岡本・小林・大森・上野・寺澤・五十嵐 第2章「核家族化・少子化・女性の就労の中で」を担当。現代の保育の場と社会というテーマのもとで、まず現代社会と家庭の特徴を章題となっている3点を柱とし論じた。次に家庭における保育の今日の問題を、家庭の教育機能の低下とその極端な例である児童虐待として解説し、社会全体で保育を支えるという観点から集団保育施設の必要性と特徴を論じた。そして、家庭と集団保育施設の多様な連携のあり方を提案した。(pp. 23-37)</p>
6. 発達心理学	共	1992年09月	朝倉書店	<p>大日向・並木・福本・藤谷・向井・石井著 精神発達を各機能ごとに概説している。古典的研究の見直しと再評価、新しい理論や研究成果について偏りなく構成している。担当の章では、知覚と記憶を統合的に説明することや、発達段階説を超えて、発達を規定する文脈や教育の効果を考察することに重きを置いた。 分担 藤谷 (pp. 51-65 知覚と記憶能力の発達、pp. 81-94 概念と思考の発達)</p>
7. 発達心理学	共	1992年05月	チャイルド本社	<p>永野編著、藤谷・松山・布施・神蔵・小関・中島・稲垣・小嶋 胎児期から老年期に至る生涯発達を扱った概論書である。発達の各時期の特徴を描いた章の後に、各々の時期に特に注目される精神機能の発達を詳しく取り上げている。担当の章では、メタ言語的機能やメタ記憶の理論も含めて概説した。 分担 藤谷 (p. 87-100 言語の発達、pp. 137-156 記憶と思考の発達)</p>
8. 図説・乳幼児発達心理学	共	1990年03月	同文書院	<p>川上・内藤・藤谷 胎児・乳児・幼児の心身の発達を、豊富な図表とともに概説する乳幼児心理学のテキストである。発達心理学の新しい知見を中心に、あわせて新・幼稚園教育要領も考慮した構成で概説している。乳児の気質、メタ認知、社会的認知などが取り上げられている。 分担 藤谷 (pp. 65-148)</p>
9. 児童心理学	共	1989年04月	チャイルド本社	<p>永野・岩井編著、藤谷・西方・神蔵・金子・布施・小川・会津・柴崎・稲垣 児童の精神発達について学び、児童理解と教育に役立てようという、学生向けのテキストである。発達心理学の新しい知見と方法論を取り入れながら、テキストとしての利用のしやすさも考慮し、知能・学習・記憶・言語・道徳性などの多くの側面の発達を概説している。 分担 藤谷 (pp. 41-54, pp. 55-70)</p>
10. 子どもと音楽 全10巻 第3巻 子どもの発達と音楽	共	1987年08月	同朋舎出版	<p>大畑・川上・遠山編、執筆者は20名以上におよぶため省略 子どもの体と心の発達を概説し、音楽指導のための基礎的知識とする。心の発達については、認知・言語・情緒・対人関係という4つの側面について説明 分担 藤谷 (pp. 56-65)</p>
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. 幼児期の協同性の発達における論理的思考力—5歳児の発達過程に着目して—	単	2017年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第6 4巻	<p>幼児期の論理的思考力、メタ認知、協同性の発達とそれらの関係性について論じ、幼児教育における思考力の育成をめぐる議論を検討した。さらに、5歳児のエピソード記録の分析から、協同性な遊びにける論理的思考力を、分類整理した。楽しさに共感する・伝え合いながら遊ぶという協同性のレベルから、多様な論理的思考が観察された。それらを基に、論理的思考力への具体的支援について考察した。</p>
2. 幼児期におけるメタ認知の発達と支援	単	2012年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第5 9巻	<p>幼児期におけるメタ認知は、児童期の本格的なメタ認知への前駆・原型型としてとらえることができることを示し、幼児期のメタ認知の諸相を、メタ記憶、メタ認識、心の理論、自己制御、他者との協同性としてまとめた。そのうえで、幼児期におけるメタ認知への支援を、遊びの目標、遊びのプロセス、評価、協同性、保育者の言葉かけ、カリキュラムの</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
3. 幼児教育・保育における「協同性」への発達の支援	単	2011年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第13号	面から考察した。 幼児教育・保育における「協同性」を育成するための支援のあり方を論じた。協同性の条件となる発達の問題、協同性の発達過程に生じる問題、協同性とメタ認知および言語の発達について論じ、それぞれについての支援を検討した。また、協同性の視点から子どもの経験の質を問うために、協同的活動への参加、遊びを学びの過程として見ていくこと、カウンセリングマインドに支えられた保育、発達障害児における支援等についても論じた。
4. 短大幼稚園教員養成における実践力育成(2)：学生及び幼稚園管理職者への質問紙調査から	共	2011年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第58巻	山下由佐, 生地加代 幼稚園教員養成における実践力育成の課題と具体的方策を検討するために、学生及び幼稚園管理職者を対象に質問紙調査を行った。主な結果として、学生からは「幼児の発達理解」と「表現活動への支援」の力量を育成する必要があるが、管理職者からはそれらに加えて「指導案作成」や「ふりかえり」の力の育成の重要性が示された。
5. 幼児教育・保育における発達支援とカウンセリングマインド	単	2010年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要12	幼児教育・保育における発達支援においても重要となっているカウンセリングマインドについて考察するとともに、学生が保育実習において実際に学んだり獲得したカウンセリングマインドの事例を整理分類し、検討を加えた。それらをもとに、気づきから実践へという保育者養成カリキュラムへの提案をし、さらに「学びの物語」や省察の視点の重要性も指摘した。
6. 短大幼稚園教員養成における実践力育成：予備調査結果から	共	2010年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第57巻	山下由佐, 生地加代 幼稚園教員向けの「教職実践演習」を履修した学生を対象に質問紙調査を実施し、大学生と短大生の実態や意識を比較した。全体的に授業の効果を実感しているが、短大生にはより実践的な力量を高めるようなカリキュラムの改善の必要が示唆され、その改善案を提示した。
7. 児童期における自己制御学習に向けた授業と家庭学習のシステムその2—予習の効果に着目して—	単	2010年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第57巻	小学校6年生116名を対象に、予習の宿題を課し、その効果をATIデザインのもとで検討した。予習という学習指導は、適性としてのメタ認知と関連して、宿題への取り組みをもたらししていることが示された。
8. 児童期における自己制御学習に向けた授業と家庭学習のシステムその1—復習の効果に着目して—	単	2009年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第56巻	小学校5年生を対象に、メタ認知を育むように工夫した宿題を課すことによる学力への効果を検討した。学力の中でも、複数の解き方を考えるなどの思考力への正の効果、メタ認知の低い児童に補償的に働くことを確認した。
9. メタ認知と教授学習過程	単	2006年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要	メタ認知研究の歴史を教授学習家庭の観点から、メタ認知概念、研究歴史、その構造、一般性と特殊性、メタ認知の発達、測定、自己制御学習との関連性という項目でレビューし、さらに学校教育におけるメタ認知育成研究の現状と展望について論じた。
10. 宿題と授業で伸ばす学力	単	2005年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要	教師が児童に課す宿題という観点から、その改善によって教育効果を高めることについて考察した。宿題を基礎学力の定着の手段とするだけでなく、メタ認知的能力をも高めるようなものにするための提案を行い、学習内容と日常生活との関連性、単元内外の他領域との関連性、自己学習へと導くことなどを論じた。
11. 適性処遇交互作用(ATI)概念の汎用性と有効性	単	2004年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第6号	適性処遇交互作用概念の汎用性と有効性を教授学習研究だけでなく、発達臨床の領域についても考察した。教授学習研究においては適性の育成という観点から、メタ認知について、発達臨床については、特別支援教育における個々のニーズへの対応、またエビデンスベーストカウンセリングを取り上げ、検討した。
12. 児童の自己概念と友人関係	単	2003年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要 第5号	小学6年生125名を対象に、自己概念と友人関係に関する質問紙調査を実施した。自尊感情や自己観における個人差と友人関係のあり方との関連性を検討することを目的とし、相互協同的自己観の強い児童は相互独立的自己観の強い児童よりも、友人関係において自己の意見を表明しにくく、同調行動をとりやすいことを見出した。児童期の自己の発達と友人関係形成への支援について考察を行った。全(pp. 89~98)
13. 児童期における自己概念の形成とメタ認知	単	2001年12月	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) 49巻	調査Iでは、児童期後期の子どもの自己概念を明らかにするとともに、自己概念とメタ認知との関連性を検討した。自己概念について6因子を抽出したが、特定の因子とメタ認知との関連性は得られなかった。しかし、能力に関する分析的客観的な自己概念はメタ認知との関連性が強いことが示された。調査IIでは、自己概念の質問紙をコンパクトなものにす

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
14. 中学時代の悩みと自己概念	単	2001年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要 3巻	るためにも、大学生の結果と比較し、発達の変化を検討した。全 (pp. 21~30) 本研究の目的は、中学時代の自己概念の発達と自己意識、及び悩みとの関連性を、青年期の発達課題の観点から検討することである。女子大1年生326人を対象に回想法による質問紙調査を実施した。自己概念について5因子で解釈したが、自己肯定感が主要な第1因子として得られた。自己概念と悩みの関連性については、第3因子の公的自己意識と悩みの多さ・自分の性格についての悩みという関連性が得られた。教育的支援についても考察した。全 (pp. 115~126)
15. メタ認知的活動が学習行動に及ぼす影響	単	2000年03月	武庫川女子大学紀要 (人文・社会科学) 48巻	大学生209人を対象に、メタ認知的活動に関する質問紙を実施して、メタ認知の構造を分析するとともに、メタ認知的活動が学習成果や学習行動に及ぼす影響を検討した。学習の理解に向けた活動・学習の自己評価活動・学習の自己探索的活動の3つの因子を得た。重回帰分析の結果、学習成果に最も影響を及ぼしたのは過去の成績であり、メタ認知はそれに増分するような効果をもたらさなかったが、自主的学習活動との関連性は得られた。全 (pp. 45~53)
16. メタ認知の育成と適応的教育	単	1999年11月	武庫川女子大学文学部五十周年記念論文集	メタ認知概念の学校教育における位置付けと、学校教育モデルとしての適応的教育の重要性、さらに適応的教育におけるメタ認知育成のあり方について、筆者の授業研究を含めて論じた。適応的教育におけるメタ認知育成として、適性の把握の必要、学習指導の過程における学習目標の設定・学習課題と方法の選択の自由・仲間との共同による学習、教育評価においてはプロセスの重視、自己評価の育成等を論じた。全 (pp. 171~182)
17. 児童の継続的な自主的学習選択による個別の学習コースのもたらす学習効果と学力の変化	単	1998年03月	科学研究費補助金 研究成果報告書	教授心理学の立場から、小学5~6年生を対象に、算数において、児童が自主的に学習コースを形成する授業を実施し、その効果を適性との関連のもとに検討した。重回帰分析を中心に適性処遇交互作用の分析を行ったが、学力の主効果が大きく、期待した学習コース形成の効果は得られなかった。しかし、長期にわたる効果の変化をみると、認知的負荷が減りネガティブな影響は減っていた。児童の学習選択の力を高める必要性が指摘された。全 (pp. 49)
18. メタ認知研究の現状と問題点	単	1991年03月	武庫川女子大学紀要 第38巻 人文、社会科学編	認知発達および学習の心理学の分野で重要な概念であるといわれるメタ認知について、その内容や研究の歴史・現状を分析し、問題点を論じる。問題として論じたのは、メタ認知と認知の区別、方法上の問題、実験室的研究と実践的研究との隔たり、被験者としての幼児のとらえ方である。さらに今後の研究方向についても検討している。(pp. 93-100)
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 幼児の協同性の発達における論理的思考力 — 3歳児の発達の变化に注目して—	単	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会論文集	幼児期の協同性の発達につれて、どのような論理的思考力が出現し、重要となってくるのかを明らかにすることが目的である。論理的思考力も協同性の発達も未熟な時期である3歳児を対象として、5歳児の論理的思考力と比較しながら、その発達の様相をエピソード記録から分析し考察した。幼児自身の発見や他者の視点を組み込んだ思考を促し、子どもたちが共有化していくよう励まし、助言することの重要性を指摘した。
2. 幼児の協同性の発達における論理的思考力 — 5歳児の発達の变化に注目して —	単	2016年10月	日本教育心理学会第58回総会論文集	協同性の発達においてみられる論理的思考力を、5歳児の「振り返り活動」を含め、さらに広範な認知的観点から検討することを目的としている。1学期は規則性への言及が主であったのが、2学期以降は、協同性の発達に伴い、仮説・アイデアを伝え、他者の視点を取ることが増えていくが、「嬉しさや楽しさを共感する」視点から多様な論理的思考力の観点が出現し、因果関係への言及も出てくることが示された。
3. 幼児の協同性の発達過程と支援 (2) —5歳児の発達過程と発達支援に注目して	単	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会論文集	阪神間の公立K幼稚園にける教師に協同性の発達に関わるエピソードを、クラスあたり3名の幼児について年間にわたり記録してもらい、今回は5歳児6名の計96エピソードを分析した。各期におけるカテゴリー別出現比率からその発達を確認した。また、支援においては振り返り活動の効果をさらに検討していく必要性を指摘した。
4. 幼児期の協同性の発達過程と支援	単	2014年11月7	日本教育心理学会第56	阪神間のK市の公立K幼稚園における、2年間にわたる

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
(1) —3歳児の発達過程に注目して—		日	回総会論文集	エピソード記録を分析し、3歳児の協同性の発達過程と教師の支援のポイントを検討した。仮説的にとりだした視点にしたがって、期ごとの出現比率を求め、発達のな変化の過程を取り出すことができた。支援としては第2期には代弁の重要性、第5期には遊びの提案が抽出された。
5. 児童期における学習の自律性と生活習慣との関連性	単	2011年03月	日本発達心理学会第22回大会論文集	児童期において学習の自律性と生活面の自律性との関連性を検討するために、小学校4～6年生児童408名を対象に質問紙調査を実施した。授業のための自主的な予習・復習や調べ学習の得点は、起こされずに起きることや食事を作る経験などの自主的な生活態度と相関を示し、生活全般にける自主性・自律性を育むことの重要性が示唆された。
6. 研究委員会企画シンポジウム「メタ認知を育む学習指導」における指定討論	単	2009年09月	日本教育心理学会第51回総会論文集	シンポジウムの意義を、活用型の学力育成とメタ認知研究の方向性にあると整理した上で、メタ認知を育成する学習指導についての視点で、各話題提供者の発表と関連させながら提案した。新たな教科学習の創出、適性という視点、授業外での支援、教師の役割の4点である。
7. 児童期における自己制御学習に向けた授業と家庭学習のシステムⅡ	単	2009年09月	日本教育心理学会第51回総会論文集	小学校6年生の児童116名を対象に、メタ認知を育むよう作成された予習宿題を課し、その効果を検討した。もともとのメタ認知能力によって、予習への取り組みがもたらされ、メタ認知的な学習指導そのものの効果は得られなかった。
8. 児童期における自己制御学習に向けた授業と家庭学習のシステムⅠ	単	2008年10月	日本教育心理学会第50回総会論文集	小学校5年生を対象に、メタ認知を育むように工夫した宿題を課すことによる学力への効果を検討した。学力の中でも、複数の解き方を考えるなどの思考力への正の効果、メタ認知の低い児童に補償的に働くことを確認した。
9. 児童期における動機づけとメタ認知的学習方略との関連性	単	2007年09月	日本教育心理学会第49回総会論文集	小学校5年生198名を対象に、動機づけスタイルと学習方略についての質問紙調査を実施した。高い動機づけの段階である「統合的動機づけ」は学習方略のすべての側面と正の相関を示し、特に「失敗に対する柔軟性」と「方略志向」が高いことが示された。高次の動機づけへの移行には、学習方略の指導も必要なことが示唆された。
10. 家庭学習の内容及び家庭学習と授業との関連性が児童の学力と学習態度に及ぼす影響Ⅱ	単	2007年03月	日本発達心理学会第18回大会論文集	Iと同一の研究を、家庭学習の実際と家庭学習に対する考え方を中心に分析した。メタ認知の高い児童ほど、家庭での予習復習に意義を感じ、勉強することに楽しさを感じていた。また、そうした児童は実際に比較的長い時間家庭学習に取り組み、宿題を提出し、成績も高いことが示された。
11. 家庭学習の内容及び家庭学習と授業との関連性が児童の学力と学習態度に及ぼす影響Ⅰ	単	2006年09月	日本教育心理学会第48回総会論文集	阪神間の某私立小学校5年生2クラスを対象に、教科算数において、一方には開発した教材による復習を宿題として課し、その効果を適性処遇交互作用の枠組みで分析した。メタ認知・事前学力を利用するものであったことが確認された。
12. 児童期における宿題と家庭学習が学習態度に及ぼす影響	単	2006年03月	日本発達心理学会第17回大会論文集	女子大学生を対象に、小学校高学年時の国語と算数について、宿題としての予習や復習の内容と頻度、家庭での自主学習等について質問調査を行った。宿題としてドリル的な学習だけでなく、自主的学習を課すことが、宿題以外の領域での自主的学習や後の自主的な学習態度に影響をもたらすことが示された。
13. メタ認知と教授学習過程	単	2004年10月	日本教育心理学会第46回総会論文集	自主シンポジウム「ATI研究からの展開—その新しい動向」において、話題提供者として発表。ATIの適性概念に焦点を絞り、適性の概念と適性の育成に関する考え方を、Snowの見解をもとに考察した。さらに、心理学的概念であるメタ認知を授業という状況の中で定義し直して、その育成を意図した筆者の研究を紹介し、今後の教授学習研究のあり方を論じた。
14. 小学校高学年の算数学習指導におけるメタ認知的自己評価とメタ認知的課題知識の効果Ⅱ	単	2004年10月	日本教育心理学会第46回総会論文集	小学校5年生を対象とした算数の授業において、メタ認知的教授法の効果を探った。学力に及ぼす効果については、重回帰分析の結果「合計」得点及び「数学的考え方」得点においては、事前の各得点とともに、教示処理条件の主効果が得られた。また、「数学的考え方」得点においては、事前のメタ認知と教授法との交互作用が得られ、教授法が補償的に働いたことが確認された。
15. 小学校高学年の算数学習指導におけるメタ認知的自己評価とメタ認知的課題知識の効果Ⅰ	単	2004年09月	日本心理学会第68回大会論文集	小学校5年生を対象とした算数の授業において、メタ認知的教授法の効果を探った。質問紙によるメタ認知と自尊感情への効果については、部分的に教授法の効果が得られたが、事前のメタ認知の影響が最も大きかった。また、今回の学習判断を指標としたメタ認知については、メタ認知的教授法が、適性としてのメタ認知と関連しながら、メタ認知及び自己効力の側面に影響を及ぼすことが示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
16. 児童期後期の算数領域におけるメタ認知—質問紙法と検査法による測定から—	単	2004年03月	日本発達心理学会第15回大会論文集	メタ認知の信頼性・妥当性のある測定が求められることから、小学5年生を対象とした算数の授業に先立ち、質問紙法と検査法による2種類のメタ認知測定を施行し、2つの方法の関連性と用いるべき指標について検討した。質問紙法の有効性が確認され、また検査法における規則性の発見と自信を組み合わせた得点が、学習判断(JOL)と相関が高く、ある程度よい測度であると考えられた。(pp.17)
17. 自己学習能力を育む授業がもたらす自己概念とメタ認知能力の発達Ⅲ	単	2003年08月	日本教育心理学会第45回総会論文集	自己学習能力を育むよう計画された授業を小学5年生に実施し、授業が及ぼす影響を、適性処遇交互作用の観点から検討した一連の研究発表のⅢである。ここでは、授業実施の1年後における自己概念およびメタ認知についての影響の結果をまとめた。重回帰分析の結果、全体的に修正済み決定係数は5年次の結果ほど高くなく、期待していたほどの効果は得られなかったが、メタ認知については部分的にいくつかの項目で効果が示された。(pp.179)
18. 自己概念の形成とメタ認知	単	2002年03月	日本発達心理学会第13回大会論文集	本研究の目的は、自己概念とメタ認知が児童期からどのように発達していくのかをとらえ、それをもとに児童を対象とする質問紙の作成に役立てることである。小学生のデータ(00,小5・6年222名)と、女子大生326人に回想法の質問紙調査で得たデータとを比較した。自己概念34項目中2/3については変化が見られ、メタ認知では6項目中2項目であった。自己意識の高まる中学時代に、自己概念が能力的側面から分化する傾向が示された。
19. 児童における自己概念の形成とメタ認知	単	2001年09月	日本教育心理学会第43回総会論文集	本研究の目的は、自己概念とメタ認知について、それらを簡便に測定する質問紙の作成を試み、発達的变化を明らかにするとともに、両者の関連性を考察し、今後の授業研究に向けた基礎とすることである。質問紙調査を小5・6年222名と女子大生69名に実施した。児童期の楽観的な自信や満足を中心とした自己概念から、自己の変化を求める自己意識の増大という発達が得られた。また、客観的な自己概念とメタ認知との関連性が得られた。
20. メタ認知的活動が学習行動に及ぼす影響	単	2000年03月	日本発達心理学会第12回大会論文集	大学生209人を対象に、メタ認知的活動に関する質問紙を実施して、メタ認知の構造を明らかにするとともに、メタ認知的活動が学習成果や学習活動に及ぼす影響を検討した。学習の理解に向けた活動・学習の自己評価活動・学習の自己探索的な活動の3因子を得た。重回帰分析の結果、学習成果に最も影響を及ぼしたのは過去の成績であり、メタ認知はそれに増分するような効果をもたらさなかったが、自主的学習活動との関連性は得られた。(p.10)
21. 児童の継続的な自主的学習選択による個別的学習選択による個別的学習コースのもたらす学習効果と学力の変化(2)	単	1999年03月	日本発達心理学会第10回大会論文集	(1)にひき続き、小5～6年の2年間にわたる算数の授業を通して、学習者が自主的に学習を選択していくことの効果を検討した。全体的には期待していた「学習コース形成」の指導効果は得られなかった。学力と教授条件との交互作用としては、当初「学習コース形成」群が学力を利用する形だったのが、指導の継続によってその効果が減じることが示された。
22. 児童の継続的な自主的学習選択による個別的学習コースのもたらす学習効果と学力の変化(1)	単	1997年09月	日本教育心理学会第39回総会論文集	適性処遇交互作用の観点に立って、複数の学習ストラテジーによる学習の中から学習者が自主的に学習を選択していくことによって、個別的な学習コースを形成するような授業を考察し、その授業の効果を検討した。公立小5年生を対象に「単用量あたり」の算数単元で授業を行った。学習コース形成群の主効果はなく、成績の中位・下位群にはむしろマイナスの影響があった。認知的負荷の高い授業であり、適性による効果の違いが明らかだった。
23. 児童の算数学習過程における概念とストラテジーの不変性	単	1997年09月	日本心理学会第61回大会論文集	小学校5年生の算数「割合」単元において、児童が学習方略を継続的に選択し、自分なりの学習コースを形成するような授業の中で、学習方略の変更のパターンとレベルおよびそれらの成績との関連を検討した。成績上位群は、取った方略である程度問題を解決できた経験によって、より高次のレベルへの方向とともに、柔軟な方略使用の方向へむかうが、試行錯誤的な変更では学習の効果は得られない実態がつかめた。
24. 算数の学習におけるメタ認知と学習方略	単	1996年11月	日本教育心理学会第38回総会論文集	算数の学習における児童のメタ認知を、一般的な学習に対する動機づけや学習態度との関連でとらえ、また日常的な事態と問題解決的な事態での違いをとらえる目的で、質問紙調査を行った。日常的な事態では成績上位群は認知的な余裕があるからこそ意識できるようなメタ認知を働かせているのに対し、中位・下位群では効率よく成績に結びつくようなメタ認知であった。問題解決事態では、下位群ほど試行

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
25. 児童の「ひとり学習」におけるメタ認知機能	単	1993年10月	日本教育心理学会第35回総会論文集	錯誤的な行動に繋がるメタ認知だった。 一人の児童の小5～小6にかけての1年間の「ひとり学習」と呼ぶノート作成とその指導を通じて、どのようにメタ認知が育成されていったのかを分析した。自己を教師的存在としてメタ認知機能を分担させる試みから、計画的に複数の方略を比較検討するようになり、さらに理由づけをしながら自己評価を行うというように、大きな変化が見られた。内なる教師という自分以外の存在を作り出し、その助けを得ることが、最終的な自己が主体となったメタ認知を導き出していることがわかる。
26. 幼児期における絵本の読み聞かせとテレビ・ビデオ視聴に親の発達期待および教育観とコントロール	単	1991年11月	日本教育心理学会第33回総会論文集	(pp. 408-409) テレビ・ビデオ視聴と絵本の読み聞かせの実態やそれらの子どもへの影響のレビューを中心に、自分の実態調査研究にも触れた。テレビ視聴においては特に親子の共同視聴の問題やメディア利用の環境等の問題を取り上げた。従来は長時間視聴の悪影響と、親子共同視聴の効果が論じられてきたが、共同視聴の内容を詳細に分析していく必要があること、また親の発達期待や教育観によって子どものメディア環境が規定されていくことなどを指摘した。
27. 幼児期における絵本の読み聞かせとテレビ・ビデオ視聴—実態と母親の教育観	単	1991年05月	日本保育学会第44回大会論文集	(pp. 280-281) 絵本の読み聞かせ、テレビ・ビデオ視聴を対比させながら、その実態をとらえ、かつ親のもつ教育観や発達期待との関連を探る目的で、アンケート調査を行った。その結果、親のコントロールは予想したよりも弱い、絵本の読み聞かせの場合とテレビ・ビデオ視聴の場合では、コントロールの仕方や程度に相関的な関係が見られた。また、発達期待がそれらの教育的手段としての認識と利用の仕方に影響を与えていることも見いだされた。
28. 設定保育における保育行動の分析 2—幼児の自主性をめぐって	単	1989年06月	日本保育学会第42回大会論文集	(pp. 242-243) 幼児のメタ認知を育成する保育行動の分析として、幼児の提案や自主的発表が取り入れられていく場合、提案や自主的発表を促す方法、幼児自身の課題選択の自由と制約、幼児の相互評価と自己評価という4つの観点からの分析を行った。メタ認知といっても、設定保育においては、モニタリングや自己の認知活動のコントロールに重点がおかれ、目標設定には制約も多いことが見いだされた。
29. 児童の減算におけるストラテジーの分析	単	1988年11月	日本教育心理学会第30回総会論文集	(pp. 66-67) 小2と小4の減算におけるストラテジーの分析を行った。児童は必ずしも学校で教えられたストラテジーを用いているわけではなく、また複数のストラテジーを用いている。小4になると課題によって最も効率のよいストラテジーを選択し、かつそれを言語化できる者もいる。また、用いているストラテジーとバグ(体系的な誤り)のタイプの間には関連があることも見いだされた。
30. Aptitude process—情報処理能力の個人差と教授方法	共	1988年11月	日本教育心理学会第30回総会論文集	並木・安藤・藤岡・藤谷・多鹿・山 (pp. 134-135) 自主シンポジウム11「Aptitude process…」における話題提供者の1人として、「ATIの情報処理的アプローチ」という題で発表。シンポジウムではaptitude processという考えに従って、教授心理学の新しい展開を探っていくという企画であり、その中で特に実践研究としてのATI研究における情報処理的アプローチの内包する問題を提案した。
31. 保育行動の分析 (1) —幼児のメタ認知の育成に関わる保育行動とその変化—	単	1988年05月	日本保育学会第41回大会論文集	某公立幼稚園における1年保育2クラスを自然観察し、幼児のメタ認知的活動の育成に関わる保育行動とその変化を分析した。主な結果は、1日の課題の提示や個々の課題の提示の仕方、幼児が自ら目標をもつことを援助する行動が見られ、それは幼児の発達に従って変化していた。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 幼児期における自己と協同性—幼児の遊びから見とる	単	2014年7月28日	三田市保育内容研修会	三田市立幼稚園の研修会講師として講演。幼児期の協同性の発達の意義及び発達過程とともに、その発達と自己の発達との密接な関係性について述べた。さらに自己と協同性の発達を幼児の遊びから見とることについて論じた。
2. 幼児の協同性	単	2014年7月14日	武庫川女子大学附属保育園	幼児の協同性の発達の意義及び発達の過程を述べるとともに、その協同性の育成について重要な支援について論じた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
3. 幼児期における自己と協同性の発達をエピソードから読み取る	単	2014年12月2日	三田市保育内容研修会	同年6月の三田市立幼稚園における講演をもとに、幼児期における自己と協同性の発達を、複数のエピソードをもとに読み取ることを指導した。
4. いやいや期の子育て	単	2013年8月26日	武庫川女子大学子育てひろば	子育てひろばの保護者を対象とした講演会。第1反抗期をめぐる子どもの発達について概要を述べたのち、具体的ないくつかの事例における対応について解説した。
5. PDCAサイクルに基づいた実践事例の考察について	単	2013年4月22日	川西市立加茂幼稚園	川西市立加茂幼稚園との共同研究における、2013年度の研究の進め方について講演。前年度から引き続けているエピソード記録からの保育の工夫の抽出とともに、計画的に工夫を組み込むことによって、効果を検討するという、検証を目的とした研究への移行を論じた。
6. 加茂幼稚園の保育実践と研究について	単	2013年11月14日	兵庫県国公立幼稚園教育研究会 阪神支部幼稚園教育研究会	川西市立加茂幼稚園の研究発表に引き続き、その研究の特徴と意義、及び今後の幼児教育と幼児教育研究について講演。単なる記述にとどまるのではない、仮説生成及び仮説検証的なエビデンスベーストな研究を意図して研究を行ってきたことを強調した。
7. 自分らしく、よりよい子育てを見つけていこう	単	2012年8月22日	あわじ津名子育て学習センター	保護者対象の講演。唯一の正しい子育てがあるわけではない。自分なりのよりよい子育てを見つけようという態度や、振り返りをしながらの子育てが望ましいということと、実例を紹介しながら解説した。
8. 協働性の育成ー保育参観から	単	2012年6月18日	武庫川女子大学附属保育園	保育者を対象とした講演。幼児における協同性の発達の意義、発達過程、その育成の要点等を解説した。合わせて、保育参観から伺えた保育の長所や工夫、若干の問題点についても述べた。
9. 乳幼児期のきょうだい関係	単	2012年5月14日	武庫川女子大学子育てひろば	乳幼児期のきょうだい関係について、保護者を対象とした講演。特に、下に弟妹の生まれた姉妹の心理的葛藤と、退行のメカニズム、それへの親としての対応等を論じた。また、きょうだい関係の個別性や発達の変化についても解説した。
10. 幼児期における自己と協同性の育ち	単	2012年10月26日	阪神支部幼稚園教育研究会、川西市立加茂幼稚園	幼児教育において、近年強調されている「協同性」という概念をめぐって、その概念の意味合いと協同性と関連する幼児の心の発達、及びその概念が孕む問題点について論じた。協同性を培うと共に、自己の発達の側面もバランスよく発達するような支援が求められていることについても論じた。

<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 科学研究費補助金学内奨励金 新規	単	2009年		短大幼稚園教員養成における実践力育成のための調査研究
2. 基盤研究 (C) 継続		2008年		児童期における自己制御学習に向けた授業と家庭学習のシステム
3. 基盤研究 (C) 新規		2007年		児童期における自己制御学習に向けた授業と家庭学習のシステム

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. ～現在	日本教育心理学会
2. ～現在	日本保育学会
3. ～現在	日本心理学会
4. ～現在	日本発達心理学会